

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102568		
法人名	医療法人 田北クリニック		
事業所名	グループホームあみ		
所在地	奈良市二条町二丁目3-18		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970102568-006&amp;serviceCd=320&amp;type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2970102568-006&amp;serviceCd=320&amp;type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和5年3月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近鉄西大寺駅より徒歩8分、平城旧跡に隣接という立地条件に恵まれ、毎朝の散歩コースとなっております。オーナーが地球環境に関心深く、未来のためのエコロジーハウス(太陽光発電、太陽光温水器)です。食材にもこだわり、利用者様の体に優しいオーガニックな食材を用いた家庭的なお料理を提供しています。施設名になっている「あみ」というのは、「私」でも「あなた」でもあり、「みんな繋がっている」という意味で、みんな楽しく愛あふれたホームを目指し、ご本人らしさを大切にケアを行っています。医療法人であるので24時間体制でクリニックと医療連携をし、医療面・健康面でも安心していきます。近所にあるかふえに気軽に出かけ、地域社会とふれあい、楽しみを持てる場となっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は4階建てで3ユニット27名が入居しておられ、四季を感じる世界遺産の平城宮跡が道を隔てて目の前に広がる。オーナー・管理者は職員研修に積極的であり、職員の能力を活かしチーム全体で今年目標「生活リハビリの達人になり利用者一人ひとりの能力を引き出す」を達成するため取り組んでいる。地域を意識した認知症共用型デイサービスや短期利用共同生活介護サービスもある。職員は日々の利用者の思いを聴き取り、課題を解決しながら「その方の人生を支えていくこと」を大切にしている。食事は、オーガニックな食材にも拘った美味しい料理を提供している。事務長提案の生前の利用者さんの写真集は、遺族を喜ばせて後々までご縁が繋がっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホーム独自の理念(笑顔・笑声・笑心)を玄関前、各フロアに掲示し、「あみしあわせ=すべての人々の幸せ」を全職員が共有している。また、クレド(信条)を朝夕の申し送り時・会議時唱和し、常に振り返りケアにあたっている。	事業所理念(笑顔・笑声・笑心)ですべての人々のしあわせを願い、みんなが繋がって人に環境に優しいエコロジーでオーガニックな生活を目指しており、SGDsに通じる。それを実現したいと朝夕や会議時に職員はクレド(スタッフの心得)を唱和している。講師を招いて”生活リハビリ”を学習し、今年目標を「一人一人の能力を引き出す」として取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、ほとんど毎日利用者様と散歩に出かけている。ご利用者との散歩時や、職員の出勤・退勤時の挨拶を通じて近隣の方とふれあいを持っている。各フロアに置いてある広報を読み、散歩時に掲示板を見ることで、地域とのつながりを持っている。	自治会に加入している。事業所の隣が自治会長宅で気軽に話せる関係で、平城宮跡への散歩時の歩道整備が自治会長の口添えで実現した。近隣の方2人が入居しており、町内を散歩して挨拶し合ったり、掲示板で町内の行事案内を読んだりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での清掃活動に積極的に参加。認知症の方に関わる相談にも、応じている。認知症共用型デイサービスも併設しており、現在1名の利用がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原則として、奇数月の第二月曜日または土曜日に、家族・自治会長・地域包括支援センターの職員が参加して開催している。家族会ともなっており、ご家族の意向や地域の方や包括支援センターの意見を取り入れ、より良いケアの実践に活かしている。	運営推進会議は家族会も兼ねており、参加者は多い。コロナ禍の為に家族の希望は「利用者との面会したい」が多いので、スライドショーにて日常を見てもらっている。会議の中で職員の研修・実技発表やヒヤリハットの報告をして、地域包括センター職員や家族とより活発な意見交換があればなお良いと思われる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護福祉課や地域包括支援センターに、事故報告や、困難事例の相談に乗っていただいたり、運営推進会議へ出席していただき、議事録の提出をするともに、わからないことはその都度聞いてアドバイスを受けている。	コロナ禍の為に市から、更新手続きなどは封書でするように案内があり、市のホームページ等で確認し、助成金や介護加算などの分からない点は電話で聞いている。入居ルートは地域包括センターや家族のロコミであり、医療処置の必要な人以外は断る事はない。生活保護受給の利用者はいない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社員研修やケア会議で話し合い、拘束の弊害について共通認識を深め、身体拘束防止に取り組み、細心の注意を払いケアしている。やむなく行う時は、ご家族の同意を得、ご様子を把握し記録して月一回は、代替え案はないか見直している。今現在は事例がない。	身体拘束について年6回研修している。各フロアのケア会議でも不適切ケアや困りごとを話し合っており、不穏になる夕方にレクリエーションをしたり、一緒に散歩するなど工夫している。転倒防止のため赤外線センサーを各フロア3名の方が使用している。ヒヤリハット報告では本人要因、職員要因、環境要因について検証している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きていないか常にご利用者の心身の状態の把握を行い、スタッフの言動や行動にも注意を払っている。社員研修を開催し、フロア会議でも話し合っている。また、虐待には至らない、不適切ケアについても、研鑽している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会に参加している。ご利用者に成年後見制度を利用されている方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を2時間ほどかけて説明し、納得していただいた上で押印していただいている。退去時は、家族と話し合いを重ねて納得していただき次の住居へ移っていただいている。その際は情報提供をおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナでご家族の面会を制限しているため、ご家族の訪問の機会が減っている。ご家族とのコミュニケーションが十分にできない状況である。運営推進会議時に意見や要望を伺い、記録を残し、謙虚に受け止め対応している。電話やlineなどご利用者の状況を伝える工夫をしている。ご意見と対応は記録に残し、職員も会議で共有し改善している。	コロナ禍でガラス越しの面会となっている。転倒予防に靴を購入したり家具の配置替えなどをし、家族に携帯のラインや電話で連絡している。家族からは、靴箱の上下の入れ場が分かりにくいやインターホンが分かりにくいなど意見があり検討中である。新入居者が8名おられるので、外部評価結果を家族に郵送するとお良いと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議や月2回フロアミーティングを行い、代表や管理者も参加し、スタッフとの意見交換を行っている。また、年2回個人面談をし、意見を聞いている。Lineワークスにより職員同士の交流、情報の共有をしている。	月1回の全体会議、月2回のフロア会議で職員と代表、管理者が共に意見交換し、ケアの均一化を目指している。年2回の職員の個人面談がある。各フロアに1台の携帯があり、ラインワークスで職員が情報を共有している。職員からは休憩の取り方やAI導入意見、イベント提案などがある。管理者は職員の能力を活かし、チーム全体で目標を達成できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月一回のコアミーティングを行い、フロアの状況把握と意思疎通に努めている。面談をし職員に思いを聞き、より良い職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、パートに関わらず、各種研修に参加したり、法人内での勉強会を開くなどスキルアップに努めている。参考書や模擬テストを購入して配布するなど、資格取得を応援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームや施設を相互訪問したり、研修を通じてネットワークを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員を交えてご本人と面談し、ご本人の話を傾聴し、思いを受け止めるようにしている。また、ご家族から情報をいただくことも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の願いや大切にされていること、困っていらっしゃることを面談にてじっくりと話をお聞きし、思いを受け止め、一緒に考えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた際には、ゆっくりと話をお聞きし、ご本人及びご家族のより良い支援について、出来る限りの援助や支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器洗いや、リビングの床掃除等スタッフと共に行っていただき感謝を伝えている。生活の中で持てる力を発揮していただけるようにしている。ご利用者も職員と共に生活をする、大家族としての暮らしを大切にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からのご希望を聞いたり、ホームでの生活の様子を手紙や写真で送ったり、安心していただくとともに、ご家族の関りも頂戴し、共にケアして。ご本人がご家族に話されたことも教えて頂き、思いを受け止めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為面会の制限を行っているが、新規入居や、ターミナルの方、状態の変化があった方には、できるだけ面会をしていただけるようにしている。ご家族とはがきのやり取りをしたり、調理、包丁とぎ、園芸、犬の散歩、保育経験などを継続していただけるようにしている。携帯電話での通話や写真や動画の送信等を積極的に行っている。地域のイベント等にも参加している。	コロナ禍で家族の面会は減っているが、家族の付き添いで通院する方や近所の美容院へ行く方がおられる。運動をされていた方には中心になって体操してもらったり、鳴子踊りを一緒にしたりしている。町内や平城宮跡へは毎日散歩している。各階の利用者同士の交流を4階で楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の様々な活動を通じて、ご利用者間につながりを持っていただく。ご利用者同士がトラブルにならないよう配慮して間に入り、人間関係性を構築できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方もその後のご様子を伺ったり、その後の暮らしの場所に行かせていただいている。ご相談に乗らせて頂くこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴・生活習慣をご家族から聞き、その人を知ることについて努めている。入居後も、それと併せて、その人の思いや意向の理解を深めていくようにしている。毎日共に暮らすなかで、ご本人の希望や不安等、お気持ちを聞くようにしている。表情や言動を五感を通して掴み、少しでもその方の思いや意向に近づくように努めている。	日々の利用者の思いは、個別の介護記録・生活の様子シートに本人の言葉で詳しく記入している。本人の思いを聴き取り課題を解決しながら、「その方の人生を支えていくこと」を大切にしている。記録が長文になるので、職員の事務作業の負担軽減のため介護記録ツールを試されるのも良いと思われる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴・生活習慣シートに記入していただいたり、ご家族からお話を伺い、できる限り情報を得るようにしている。日々の会話や行動からも、把握し深めていくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で、状況把握をして、穏やかに自分らしく生活できるようにしている。起きる時間や寝る時間、食事の時間や場所などは自由に対応し、自分らしく生活していただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日、生活をアセスメントし、月2回のフロアミーティングや随時、看護師・相談職も含めたスタッフの意見を聞いているとともに、ご家族の意見もいただき、検討を重ねている。状態の変化があれば適時、半年ごとにモニタリングシプランを見直している。	各利用者担当の職員が毎日のようすを把握している。月2回のフロア会議やサービス担当者会議でスタッフ、看護師で介護計画の短期目標のモニタリングをし「モニタリング総括評価表」で評価している。見直しされた介護計画書は家族に送付して意向確認しているが、サービス担当者会議に家族の同席があれば家族の意見が反映されてなお良いと思われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記入は、重要なポイントをわかりやすく書き、重要な情報共有は、連絡ノートに書く。記録の書き方についての研修を行い、より良い記録をするようにしている。朝夕の申し送り時に情報の共有をし、見直しをしている。介護記録はスタッフの思いや検討・工夫も記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人にクリニックを有し、医療面に細やかに対応している。ご利用者の希望によりドライブに出かけたり、買い物等を楽しんでいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平城宮跡が近くにあるという利点をいかし、散歩に出かけ、地域の方とふれあっている。季節ごとの平城宮跡のイベントにも参加している。スタッフの子どもの訪問を受け一緒に過ごし楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長がクリニック医師であり、月2回の訪問診療にて、ご利用者の健康管理を行っている。必要時には他医療機関に繋いでいる。看取りにも対応している。皮膚科・歯科は訪問診療が受けられる。法人のクリニックだけでなく近隣の医院への継続受診が自由に行える。外部受診は、ご家族にお願いをしているが、ご家族の都合が悪ければ付き添っている。	利用者27名のほとんどが、理事長の訪問診療を受けており、家族と共に外来受診する方は3名である。看護師が週5日勤務して利用者の健康管理を行っていて、本人や家族は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週5日勤務している。ご利用者の健康状態の報告と相談をし、協力しながら健康管理を行い、変化があれば、速やかに医師に報告相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を2か所の病院としている。入院先はなるべくご本人やご家族の希望をお聞きしてつないでいる。入院後は、病院と連絡を取り合い、病状の把握と、リハビリ状況等を見学し、退院後の生活がスムーズに行えるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けての要望確認書をご家族に記入いただき、随時更新をしていただいている。普段よりご家族と重度化や終末期について話し合っている。医師とも相談し、状態悪化の時は入院治療し、良くなれば退院して、出来るだけホームの生活を続けて頂けるようにしている。看取り後チームで振り返りの話し合いを必ず行っている。	入居時に「看取り指針」を家族に説明し、「終末期に向けての要望確認書」を取っている。これは救急車対応時にも有効である。昨年は8名の方を看取った。最後まで自然体で生活してもらい、リクライニングイスでリビングで過ごしたり、部屋へ利用者が見舞うなど利用者皆で見守っている。終末期には家族、管理者、代表が泊まり込むこともある。職員はDVDで学習したりフロア会議で指導を受け、関わったチームで振り返りの話し合いをし記録に残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルをもとに全体研修やミーティングや勉強会等で緊急時の対応や感染症の知識を高めている。緊急時は、医師・代表・管理者と連携が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の避難訓練を行っている。内訳は火災2回(昼間・夜間想定各1回ずつ)・地震1回訓練を実施している。ご利用者の容態に合わせた避難方法を確認している。	夜間想定訓練が多かったが、昼間想定ของทีมワーク訓練も必要とわかり5月に昼間想定訓練、7月に地震想定訓練(奈良県一斉地震行動訓練)を実施した。利用者は参加しておらず、火災時は各フロアに集まり避難するが、4階建てであり課題もある。自治会長に普段から声をかけており、以前には近隣の火事に協力したこともある。備蓄は水・食料が2日分ある。	利用者が参加して避難訓練を実施し、消防署にも立ち会ってもらって具体的アドバイスを受けることが望まれる。また、災害時の地域との協力関係を話し合うとともに、BCP(事業継続計画)の作成、整備が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、尊厳を守り、その方の生き方を大切にし、丁寧な言葉遣いを心掛け寄り添っている。その方のお気持ちに合った言葉、通じやすい言葉を意識している。	理念に「一人ひとりが尊厳をもってみんなが幸せに楽しく暮らせるホームを目指します」と謳っており、日常的に利用者の尊厳を意識して丁寧な言葉使いをしている。入室時はノックをする、失禁時はさりげなくトイレに誘導してケアをする、トイレ使用時はドアを閉め利用者の気配に注意見守りをするなど配慮している。プライバシー保護のため、居室ドアにある小窓は紙で塞いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの心身の状態を見つめ、その方に合った話しかけをし、お気持ちやご希望を引き出すことを心掛けている。言動は逃さず把握し、記録し職員が共有してケアに活かすようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴等をご利用者様お一人おひとりのペースに合わせている。希望を聞き、出来る範囲で希望に添うようにしている。ご利用者との会話を大切にし、その中からもご本人らしさを掴むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、入浴前に着替えをともに選び、洋服を楽しみを持って更衣していただいている。散髪は、ご希望の方は近くの美容室を利用されている。ホームで、毛染めやカットを職員がさせていただくこともある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	机を拭く方、お茶を入れる方、食材を盛り付けていただく方、食器を洗う方、食器を拭く方等、出来ることをしていただいている。献立を説明し、調理の音や匂いで食指を動かし、楽しみを持って頂いている。希望のメニューを献立に反映させている。	週末以外は近くのあみカフェで昼夜食を調理して各フロアへ運び、朝食は夜勤者が作っている。事業所厨房でオーガニックに拘ったみそ汁とご飯を手作りしている。週末は利用者も手伝いちらし寿司、焼きそば、お好み焼き、餃子などを作ったりしている。家族と外食する方もいる。誕生日にはケーキなど希望を聞き、特別感を出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ひとりに合わせた種類や形態にして安全に摂取できるようにし、生活の習慣を取り入れた時間に提供している。食べる量はDrに指示を受け適量を提供し、献立は、アレルギーや好みにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身でみがける方へはお声掛けし、介助の必要な方へは、歯磨きや歯間ブラシ等でケアをしている。状態により歯科受診し、口腔内を清潔に保っている。歯科医より職員の指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ布パンツをはいていただく。その方の排泄パターンや、習慣に沿って声掛けし、トイレ誘導しトイレでの排泄を促している。出来ることはご自身でいただき、失禁時には傷つけない様に配慮している。	排泄パターンをチェック表に記入し、昼間はトイレ誘導をしている。半数以上の方が布パンツに尿取りパッド使用しており、フロアミーティングでパッドの種類を検討している。夜間ポータブル使用は4名である。トイレドアには花の目印をつけ、トイレ内には転倒防止に学校机を設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便を目指し、牛乳を飲んでいただいたり、にがりやバナナ、オリゴ糖等の摂取など、それぞれに工夫させていただいている。職員全員が便秘が及ぼす影響について理解し、入浴や運動、腹部マッサージを行っており、トイレに座ることを習慣にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間、入浴方法の希望をお聞きしている。好みの時間に入浴いただいたり、洗髪だけなど、その方のお気持ちや状態に沿うようにしている。汚染や失禁された際には適宜入浴して綺麗になっていただいている。	入浴は週3回で、最終19時30分位まで可能である。湯はかけ流しで一日3人位ゆっくり入浴でき、週5回入る人もいる。ゆず湯、菖蒲湯、アロマ浴なども楽しんでいる。同性介助も出来る。重度化した利用者にも対応できる入浴介助を職員は研修しており、機械浴は必要としない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも、自由に居室に戻り休息したり、横になっていただき、いつでも自由に横になれるという安心をもっといただいている。昼夜逆転にならないように、お声掛けや、日光浴等を行っている。夜間はアロマオイルを使用して気持ちよく眠れるような環境をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誰がいつ、どんな症状に対する薬を、何錠服薬なさっているか職員全員が認識している。毎回服薬前に確認を行い確実に服薬していただいている。用法や用量は、職員間で確認をし、間違いのない安全な服薬を確保している。服薬後に異変がないか、ご様子の把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや、掃除、新聞を取りに行く等生活の中で得意なことを発揮していただいている。体操や踊り、創作活動など嗜好や趣味を把握して、お一人おひとりが張り合いを感じて頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、天気の良い日には散歩に出かけている。季節を感じていただけるように花や樹木の鑑賞にも出掛けていただいている。犬の散歩に出かけたり、ドライブに行ったりもしている。	昼間はオーナーの愛犬2匹と一緒に、町内を毎日散歩している。事業所建物と道を挟んで平城宮跡が広々とあり、四季を感じて散歩できる。体力に応じて敷地内のベンチで憩ったり、花の水やりをして外気浴をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の方にとって金銭管理は難しく、紛失の危険性も大きいので、原則は金銭の所持はしていないが、強い希望のある方には、ご家族と相談し、少額を自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っていらっしゃる方もいる。事務所にて充電させて頂いたり操作を手伝うなどの支援をしている。自身の携帯電話がない方も、事務所の電話からかけて頂いたり、手紙を出されることの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには花のマークをつけて認識しやすいようにしている。西日がまぶしいため、リビングはロールカーテンにて日光の調整をおこなっている。換気をし、温度や湿度を調整して快適に過ごせるようにしている。季節に応じた飾り付けをご利用者と一緒に行い、すべての方に心地良いと感じていただけるように工夫をしている。	各フロアのリビングは明るく、ソファがあり、掃き出し窓から周囲の景色も楽しむことができる。利用者の身長に合わせられる机とイスがあり、さりげなく洗濯干しやゴミ捨て時に部屋の換気をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを数か所置き、好きな場所でくつろいでいただいている。また、他のフロアとも行き来し、気の合うご利用者と過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、イス等家具や、なじみの写真や絵、使いなじんだ布団や衣類等も持ってきていただき、普段の自宅での生活と変わらないよう配慮している。	居室にはエアコン、カーテン、作り付けタンスが用意されており、利用者はベッド、布団、家具など好みの物を持ち込んで生活しやすい工夫がなされている。テレビを置き、作品を飾っておられる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ内に机の設置や居室内に長机を置かせていただいたり、安全におひとりでも行動していただけるように配慮している。		